



Newsletter July 2007

Malawi



マラウイは1964年に独立を果たし、それまではイギリスの保護領ニアサランド（1891年成立）として知られていました。この国では、政治汚職の増加、人口増加、農業土地の圧迫、HIV/AIDSの広まりなどが国内に影響を及ぼしています。

マラウイは南部アフリカにある小さな国です。国境をタンザニア、ザンビアとモザンビークと接する内陸国で、多くの山々があります。また、南部アフリカ開発共同体（SADC）の加盟国でもあります。マラウイの経済基盤は農業生産で、地方人口の90%の人々は農業に従事しています。タバコ、お茶、砂糖はマラウイで農換金作物として輸出され、タバコはその輸出市場で3分の2を占めています。

マラウイは様々な異なる植物や山々などの風景に恵まれた国です。アフリカで3番目に大きなマラウイ湖は、国の20%を占めています。マラウイは慢性的な旱魃による食糧不足を引き起こしやすく、援助が必要です。

面積：総計：118,480 sq km,

土地：94,080 sq km, 水面積：24,400 sq km

人口：13,603,181(2006年)

宗教：キリスト教（大衆宗教）、イスラム教、その他

HIV/AIDS - HIV/AIDS感染者：900,000

HIV/AIDS-死亡者：84,000

識字率：（15歳以上で読み書きができる人）

人口総計の62.7%（男性：76.1%，女性：49.8%）

GDP (PPP) :合計68億4,500万ドル（1人あたり600ドル）

(※2003年のデータより)



マラウイの人口を予測するとき、特にAIDSによる死亡率の影響を考える必要があります。

マラウイは世界最貧国の1つです。貧困は、衛生、安全な水、初期の医療治療、初等教育、1年間に必要な食事の不足をうみだし、人が生きていくのを困難にします。

人口のほぼ半分の人々は、1998年までに安全な飲み水の確保に成功しました。しかし、実際には水源の枯渇や故障により、安全な飲み水を確保できる人々は32%以下です。

1998年には慢性の栄養不足の広まりにより、49%の5歳未満の子供が発育阻害と長期間の栄養失調の問題を及ぼしました。

Book sales as income generating activity –



Newsletter July 2007

Book sales as income generating activity- at Second Hand Clothes and Shoes Sale project in Malawi

私は2006年の5月にCICDのDIコースに参加し、2006年11月～2007年4月までアフリカのマラウイにいました。私が参加したプロジェクトはSecond hand clothes and shoes sale です。

まずは Second hand clothes and shoes sale というプロジェクトはどのようなものなのかというと、DAPP (Development aid from people to people) in Malawi (Humana people to people organization in Malawi) の資金集めの仕事のことです。簡単にいうと、ビジネス、商売です。ビジネスを行って、それで得た収益は組織運営と他のマラウイでのプロジェクトを支援するのにあてられています。

どのようなビジネスを行っているのかというと、1つは中古衣類と靴の販売で、DAPP in Malawi はこれらをヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアから受け取り、それを現地で販売しています。もう1つは中古本の販売で、このビジネスは2006年の12月に始まったばかりの新しいビジネスです。



*Clothes and Shoes Sale
(Whole Sales)*



Books sale



最初、本は分類されずにただダンボールの中に乱雑に入れられていた。



*Clothes and shoe sale
(retail shop)*



本の整理整頓、値段のチェック

Second hand Books Sale について

このプロジェクトの仕事は沢山ありますが、今回は私が特に中心として関わった中古本の販売ビジネスについて紹介します。

Second hand books sale は最初にも説明したように、とても新しいビジネスです。DAPP in Malawi は2006年の12月に35,000の中古本をアメリカから受け取り、それを現地で販売し始めました。どのような種類の本があるかということ、小説、教科書(参考書)、絵本、料理本、健康(ダイエット)に関する本などその他、様々です。

最初に私達が行った仕事は本の分類です。それというのも、最初に私達が35,000もの本を受け取ったとき、本の種類わけが行われていなかったからです。小説は小説、絵本は絵本といったように分類する必要があります。あと、どの本がきれいであるのか、どの本が汚れていて商品として売ることができないかということもチェックしなければいけません。こうした本の分類やチェックが終わって、初めて本の値段を決めることが出来ます。この仕事を私と他の数人のボランティア(Development Instructor)、プロジェクト全員(マラウイ人)の約30人で1週間、朝から夜にかけて行いました。

正直にいうと、この仕事はそう簡単ではなかったです。それというのも、この仕事を行った大多数



Newsletter July 2007

がマラウイの人々で、彼らは本についてはそう詳しくなかったからです。私達日本人は、これは小説、これは教科書…といったように区別することはそう難しくありません。だけど一緒にこの仕事をしたマラウイの人々にとってはそう簡単ではありません。こう書くと一部の人は何で？と思うかもしれませんが、マラウイでは日本と違って本は珍しく、彼らの生活の中に普及していません。本屋さんは大都市に1つか2つ、多くて3つあるくらい。本の値段も一般のマラウイの人達には高すぎる値段です。本に接する機会がそう多くないから当然、本に関する知識が少ないです。そのため、この仕事には時間がかかりました。それに加えて全て手作業…。アフリカ、マラウイでは、何を行うのにも労力や時間を日本以上に必要とするのは当たり前ですが、さすがに終了前には疲れきって「早く終わりたい…」と思ってばかりでした。



ダンボールから本を運び出して机の上に広げ、それから本を種類別に分類する。



分類した後、同じ種類の本を一緒にして白い袋に入れる。



分類が終わったら値段つけ。シールを本の表紙の片隅に貼り、ペンで値段を書く。

分類が終わった後、本に値段をつけなければなりません。だけど最初、私をはじめプロジェクトのスタッフの人達はそれぞれの本がいくらかくらいが適当な値段なのか全くわかりませんでした。私としてはマラウイに来たばかりだし、現地の状況をちゃんと理解していなかった。プロジェクトのスタッフの人達にとっては初めてのビジネス。どの本が売れるか、いくらかが適当な値段か…。そういった経験や知識がなかったし、他の店を参考にしようとしても中古本屋さんは中々マラウイにはない…。とにかく最初は自分たちの思いついたままに、この本は売れるだろう！この本はこれくらいの値段だろう！といったふうに、思いついたことをそのまま実践するしか方法がありませんでした。

販売のスタート

こうした仕事が終わった後、お店での販売がスタートしました。私と2人のスタッフに1つのお店が任せられました。だけど、最初、私は困ったことにどうしたらうまくこのお店をまわせるか（儲かるか）、全くわかりませんでした。「貴方はこれからこのビジネスの担当ね。」と言われたのはいいですが、どうしたらいいか、どうするべきかといった指導はない。2人のスタッフも新しいから、もちろんわからない…。

だけどやらなければならない。わからないから、といって諦めたりほうっておくことはできない。



Book shop in Trade fair (主店)



Newsletter July 2007

それでも困ったことに最初はお客さんが少なく、お客さんが来ても本を買わずに帰って行く。売上がかなりよくない。だけど最初は何が間違っていて、どこを改善しないといけないのかが私とスタッフたちはわかりませんでした。

だけど、お店にずっといてお客さんと話をしていると、何が問題なのかがわかってきました。

何が問題だったかというところ…

1. 本の値段がマラウイのお客さん達にとっては高すぎる。
2. マラウイのお客さんたちは、教科書や絵本にとっても興味があってそれ以外はあまり買わない。(お金がないから余計に)だから、それ以外の本の値段は教科書や絵本よりかなり安くしなければならない。
3. お店の整理整頓が悪い。特に最初は本を机の上に置いていただけだったから、お客さんが本を探しにくい。
4. 私達のお店についての広報活動が全然足りてない。だから多くの現地の人達が私達のお店を知らず、人が来ない。



後になって Clothes と Shoes のお店でも一部の本の販売を始めた。

何が問題なのかがわかったら、それを解決できる方向へ導かないといけない。そこで私と2人のスタッフは、次のことをし始めることにしました。

1. 全ての本の値段をチェックし、マラウイの人々が買いやすい値段に下げる。
2. マラウイのお客さんは教科書や絵本、一部の料理本やマラウイでも有名な作家の小説は好んで買う。だから値段を少し高めにする。逆にマラウイのお客さんは、健康や自然、動物、その他についての本は興味がなくて必要なくて買わないので、かなり安くする。小説は一部を除いて全く売れないので、有名な作家以外の小説は安くする。特にマラウイのお客さんはハードカバーの小説が嫌いで買わないので、単行本よりかなり安くする。
3. お客さんが本を探しやすくするために、本棚が必要。(最初は1つの本棚もなかった)予算を組んで上部と相談し、購入する。その後で本を種類別に本棚に置き、どの本棚にどの種類の本があるかをお客さんがわかるように、サインをつける。小説は全てを作家のアルファベット順に仕分けて並べる。



オフィスでの広報活動。インターネットやパソコン、プリンターは基本的にオフィスでは使用できる。

4. 広報活動に力を入れる。ちらしとポスターを毎週作り、マーケットや町に行って人々に配る。他のお店を回ってポスターを貼ってもらえるように頼む。あとは、近くの学校や会社を回って自分たちの組織についての説明と活動について説明をし、本を買ってもらえるようお願いする。

マラウイでは主にこの2種類の広報活動が基本的です。日本だと、EメールやHPといった方法が主です。だけどマラウイでは当然、難しいです。新聞やラジオに頼るという方法もありますが、費用が高いためそう頻繁にできるわけでもありません。

あとはお客さんに対してサービスを作り、お客さんが楽しめたり、満足できるようにしました。例えば、月に1回「ブックフェア」という特別な日を作



Newsletter July 2007



お客さんとの討論。基本的にマラウイの人々はいつも値切ってくる。

って、その日だけ10%値引きをしたり、くじ引きを作って運のいいお客さんは商品が手に入れられるようなこともしました。この日はいつも沢山のお客さんが訪れて来てくれ、ときには約半日で600冊も売れたことがあります。

あとはお客さんとのコミュニケーションを大切にしました。特にいつも話すように心がけるのは大切です。ビジネスをするには、お客さんが何を望んでいるかを常に見ておく必要があるからです。アンケートを取ったり、連絡先を記入してもらって、常連さんにはこまめに連絡をとるようにもしました。

マラウイでの仕事を終えて。

おそらく、皆さんの中には「何でアフリカのマラウイで本を売るビジネスをするの?」と、思う人がいるかもしれません。確かにこのビジネスはマラウイではそう簡単なことではありません。このビジネスの主な目的はもちろん、収益を得てそれで組織と他のプロジェクトを運営することです。けれど、このビジネスが上手に軌道にのったとき、それとは別の効果が表れると思います。マラウイに本を普及するきっかけにもなり、知識を得て教育水準をすこしでも上げることができるのではないかと。私としてはこう考えることもできると思います。

このプロジェクトはビジネスなので、多くの Development Instructor は興味がなく、働きたがりません。というのも、多くの Development Instructor は、アフリカでボランティアをするなら子供や HIV の人々を支援するプロジェクトで働きたいと考えるからです。確かにこのプロジェクトはそういったいわゆる現場支援活動ではなく、農村や村落共同体の人々と密接に関わる仕事ではありません。仕事はオフィス（組織）と密接で、どちらかというと組織運営の仕事、日本でいうお役所仕事です。けれど、仕事を一緒にするのは同じマラウイの人々です。（DAPP in Malawi で働いているほとんどはマラウイ人）どのようにして組織全体や他のプロジェクトを上手に運営するか。そのような議論を彼らとかわし、一緒になって仕事をつくりあげていくということはとても興味深く、やりがいがある仕事だと私は思います。その中で、私は自分と違う国の人々、とくにアフリカのマラウイの人々と一緒に仕事をするという難しさを実感しました。なぜなら私は日本人、彼らはマラウイ人。私達は文化も異なり、育ってきた環境が全く異なります。当然、価値観も全く異なるから仕事をしていて意見があわないことが多かったです。彼らには彼らのやり方があり、意見があり、価値観があります。「郷に入ったら郷に従え」というように、それは尊重すべきことです。私の意見と価値観をおしつけるべきではありません。しかし、いつもそれをしていると仕事にならないときもあります。それなので、口論になることも少なくなく、お互いを間違えて理解することもあり、疲れるときも多かったです。自分のコミュニケーションの力不足を強く実感しましたが、同時にその難しさもいつも実感していました。

マラウイで Development Instructor として6ヶ月間、滞在し、仕事を終えて思うところはやはり自分の力不足です。専門的な知識や技術、経験といったものは、国際協力活動を行ううえで重要なものです。もし私がビジネスに関する知識や経験をもっていれば、初めてこのプロジェクトで働いたときに、もっと上手にできることは確かだったでしょう。自分の努力だけでは限界があります。この6ヶ月間の期間は、それらを私に実感させてくれたと思います。もちろん、これらのことは当たり前といえば当たり前で、多くの人々が知っていることです。けれどそれを知ること、思うことは簡単ですが、実際にわかる、実感するとなると難しいことではないかと私は考えます。

これらを踏まえたうえで今の私に必要なことは、自分の視野を広げ、多くの勉強と経験を積み、次のステップに進むことです。そうした過程を踏まえ自分の夢と目標を突き進める一。



Newsletter July 2007

それは今からしなければいけないことです。そして今、自分が思うことは、これら全てのきっかけを与えてくれたマラウイでの生活、マラウイの人々に改めて感謝すると同時に、マラウイで6ヶ月間、このプロジェクトに参加したことは、自分のとても大きな宝物になったといえます。2007年7月 中尾友美

あなたはボランティア活動について何を感じますか？

CICDではまだ、9月と11月チームのボランティア参加者を募集しています！

9月チームはモザンビークとインド (Tamil Nadu. 詳細は下の記事を読んで下さい。)！

また、マラウイでBook Saleのプロジェクトで活動されたい方は11月チームに！

お問い合わせは cicd05@yahoo.co.jp まで！

Green post Tsunami Action Project in Tamil Nadu, South India

"Green Post-Tsunami Action" project は、インドの Tamil Nadu の 60 の沿岸の村で彼らの生計を向上することを目的とするプロジェクトで、住民達のコミュニティを津波による被害から再生するための援助をしています。これは、生態学上に持続可能である革新的な低度技術を方法に取り入れることによって、行われることになっています。そして、日常の生態系バランスを改善することを通して、将来の自然災害を防ぐことが目的です。目標グループは、女性、dalits (下級のカースト制度人々)、部族民と他の恵まれないコミュニティの人々です。

これは生態学上に持続可能である革新的な低度技術を方法に取り入れることによって、行われることになっています。そして、主な活動は安全な水と公衆衛生の供給です。同じく一時的な避難所、地下水の涵養と水の保全、塩害を受けた農地回復、持続可能な多角的農業方法の奨励、森林保護の向上、これらの環境を考慮した自然システムは、将来の自然災害が起こる可能性を防ぐことができます。

今日までにおけるプロジェクトで、4つの井戸、2台の Rope Pumps, 4つの Vermi-Units をつくりました。また、14つの水と公衆衛生の委員会、20の Self Help Groups と4つの分野からなる SRI [Rice Intensification (Scaling up)] が設立されました。

The Project is funded by European Union, Ulandshjelp fra Folk til Folk i Norge (UFF Norway) and Biståndsföreningen HUMANA Sverige (Humana Sweden)



プロジェクトスタッフには、プロジェクトリーダー、水の専門技術者・地質学者、農業専門家、環境専門家、1人の経営管理者、6人のコミュニティ組織者、4人の Development Instructors が居ます。



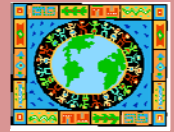
このロープポンプは、プロジェクトによって設置されています。これは新しく、コミュニティにとって廉価な技術費用で、特に貧しく農村の農民も入手することができます。費用は約 110 ドル、子供達とコミュニティの人々は地面から淡水を得た後、喜びます。



プロジェクトは、彼らに基本的な公衆衛生の向上を助け、被害を受けた村で公式的に使用できる効果的なトイレ、vermi-composting (ミミズを使用した肥料) の固形廃棄物管理システムと EM (Effective Micro-organisms) の使用などはコミュニティの人々を助けるでしょう。



College for International Co-operation and Development



Newsletter July 2007



*College for International
Co-operation and Development
@
Winestead Hall
Patrinton
Hull
HU12 0NP
England*

Email: marie@cicd-volunteerinafrica.org

Contact Details:

Tel: +44 (0)7813 854 298

+44 (0)1964 631 826

Fax: +44 (0)1964 631 695

Websites:

www.drh-movement.org

www.cicd-volunteerinafrica.org

www.humanapeopletopeople.org